

●三位一体後第九主日

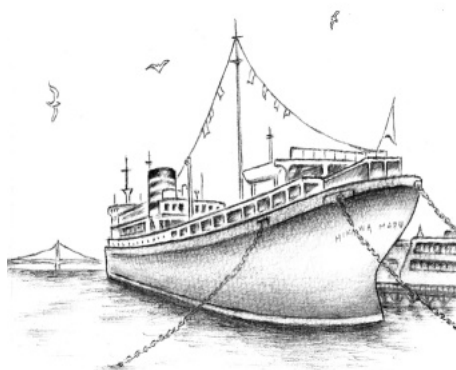
泉のほとり

今月の詩編「第百二十六編」

主よ、わたしたちのために

大きな業を成し遂げてください。

わたしたちは喜び祝うでしょう。



言われた通りにするだけで

主が戦争の勝利を与えられたため、王に重んじられていたアラムの軍司令官ナアマンは「ツアラアト」という皮膚病に冒されていました。律法ではこの「ツアラアト」にかかった人を「汚れた者」と定めています。更に律法は主ご自身が人に「ツアラアト」を生じさせられることも示しています。

イスラエルより捕らえられてきたナアマンの家の女奴隷が「イスラエルにはこのツアラアトを治せる神の預言者がいる」と言うのです。ナアマンは王の許可を得、イスラエル王宛に書かれたアラム王の手紙を携えてイスラエルに行き、そこから預言者エリシャの家に向かっていきました。

エリシャの家に着いた時、アラム王の軍司令官であるナアマンを迎えるために外へ出て来た人は一人もいませんでした。エリシャも顔すら出さなかったのです。使いの者を送って「ヨルダン川に入つて、七度、自分の体を洗いなさい。そうすれば、元どおりにきよくなります」と伝えただけでした。ナアマンはエリシャが自分を迎え入れ「よくいらつしやいました」と挨拶をし、丁寧に患部をみて、手を動かして、自分の神に願ってくれることを期待していたのです。しかし、家の中にも入れてもらえず、まるで門前払いされるような扱いを受けたことに激怒して、そこを立ち去るのです。

ところが、帰る途中家来たちが「預言者が難しいことを言ったわけでもなく、言われたとおりにするだけで治ると言うのです」と進言するのです。プライドが高く、心の頑なな人は、普通、周りの人たちも自分と一緒に怒って、自分の怒りがいかに正しいかをも認めて欲しいのです。そうでなければ、「あなたはこの屈辱が分かっているかい」、「死んでもこの屈辱を忘れない」などと言うと思うのです。しかし、ナアマンの優れたところは、彼の戦争における戦略、戦術、勇敢さではなく、素直な心でした。「今のあなたの怒りは正しくない」と言っているような僕たちの声に耳を傾け、彼は「そのとおり、それが正しい」と思い、今まで憤慨していた自分を改め

るのです。また、ナアマンはしもべたちが進言できるような人でした。

それは普段から彼が人の話を聞き、正しいことに聞く耳を持ち、自らを改める人だということも示しているのです。いずれにせよ、ヨルダン川に入つて七度洗いました。子供のような肌生まれ変わったのです。この時、ナアマンは更に自分を改めたのではないのでしょうか。軍司令官、自分の偉業を認めないかのような待遇に怒っていた自分がいかに偉そうだったのかと。ナアマンは引き返して、エリシャのところへ戻りました。またも門前払いされるようなことがあつても、戻るべきだと思つたのでしょう。重要なのは彼の皮膚病が治つたことではなく、彼自身の心にある「ツアラアト」が取り除かれ、きよめられたことです。

ツアラアトに冒された「汚れた者」は、人の家に入ることも、人に触れることも禁じられています。初め、ナアマンは門をくぐつて預言者に会うことができませんでした。しかし、戻つてきた時にはエリシャに会うのです。体の汚れが治つたからではなく、彼の心が改められ、きよめられたからです。

主はナアマンに勝利を与えましたが、また「ツアラアト」をも与えられました。勝利だけがあつて、「ツアラアト」がなかったとしたら、彼は「幸い」だったでしょうか。勝利は人を高ぶらせますが、「ツアラアト」はナアマンをへりくだらせ、主に近づかせ、一生、主に仕える心を抱く者にしたのです。

神は一人の人生をどのような御心で導かれるのか、人には計り知れない神の知恵を思うのです。そして、主が人になさるすべてが「よい」ことを思うのです。主を信頼して、直ぐな心で人を正しく導かれる神の義の道に耳を傾け、いつでも自分を改めるきよい心で生きたいと思ひます。

2025年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

わたしたちのヴィジョン

主イエスの愛の中で、

愛と交わりを通して

お互いに成長する教会

《今日のお知らせ》

○ 本日、黄牧師は夏季休暇のため不在です。吉村名誉牧師が説教をはじめ礼拝での奉仕を担当してください。

○ 本日の礼拝後、全体での集会はありません。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《伝道カテゴリーより》

本日、主日礼拝後二時三〇分より第二、三シオンルームにて伝道カテゴリー奉仕者全体会を開催します。伝道カテゴリー運営メンバーおよびサポートメンバーの教会員はご参加ください。

《ルツの会より》

本日、礼拝終了後一五分後からカナンルームでルツの会を行います。聖書、讃美歌をお持ちの上、ご参加ください。

《祈りの会より》

八月の祈りの会は、会場の都合により八月二四日（日）に行います。開始時間は一二時一五分から。会場はカナン・ルームです。

《シオンの会より》

八月二〇日（水）一〇時三〇分～一二時シオンの会を第二第三シオンルームで行います。（オンラインも併用します。）

テキスト「使徒言行録を読む」P.三七 五神の前に立つ畏れを（四章三二節～五章一一節）を読みます。参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。

〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和します。

【詩篇百二十六篇】 都に上る歌。

主がシオンの捕われ人を連れ帰られると聞いて

わたしたちは夢を見ている人のようになった。

そのときには、わたしたちの口に笑いが

舌に喜びの歌が満ちるであろう。

そのときには、国々も言うであろう

「主はこの人々に、

大きな業を成し遂げられた」と。

主よ、わたしたちのために

大きな業を成し遂げてください。

わたしたちは喜び祝うでしょう。

主よ、ネゲブに川の流れを導くかのように

わたしたちの捕われ人を

連れ帰ってください。

涙と共に種を蒔く人は

喜びの歌と共に刈り入れる。

種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は

〔司・会〕

束ねた穂を背負い

喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「自分の弱さを認め、願う求める」

聖書 列王記上3章4～10節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）

説教 「本当に幸せな民は」

聖書 列王記上10章1～9節

説教者 吉村和雄 名誉牧師

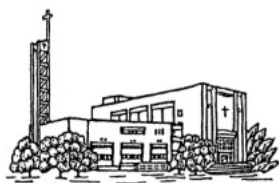
●主日礼拝（午前10時30分・礼拝堂）

讃美歌 73番 234A番

説教 「福音を告げ知らせながら」

聖書 使徒8章1～8節

説教者 宮間彰広兄





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 7番 225番
説教 「わたしたちを救う名は」
聖書 使徒4章5～22節(新約 P.219)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 吉村 和雄 名誉牧師
説教者 吉村 和雄 名誉牧師

前奏曲「我ら皆唯一の神を信ず」J.ハッヘル

○讃美歌7番

- 1.主のみいつとみさかえとを こえのかぎりたたえて
またき愛とひくきころ 御座にそなえひれふす
- 2.ゆだねまつるわが重荷を 主はかわりて負いたもう
なやみおおき世の旅路も主のいませばやすけし
- 3.よろこびもて御前にいでん まずしき身のささぐる
愛とまこと主は嘉みして みくらちかく召したもう
- 4.闇をかえてひかりとなす なぐさめぬしとうとし
のぞみは湧きおそれは消え み民のさちつきせじ
アーメン

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。

○讃美歌225番

- 1.すべての人にのべつたえよ
かみのたまえるみおとずれを
あめなる父は み子をくだし
すくいのみちを ひらきませり
- 2.あまねくのべよ よき知らせを
まことの幸を もとめつつも
むなしきものに さそわれゆく
世のはらからに のべつたえよ
- 3.十字架のうえに 死にたまえる
み子こそ永久の すくいなれや
かみのたまえる この知らせを
地のはてまでも 告げひろめよ
アーメン

聖餐曲「天使の別れ」(ジェロンティアスの夢より)

E.エルガー

後奏曲「輝く日を仰ぐ時」D.ワット